

令和6年度 仙台市若林区区民協働まちづくり事業 企画事業一覧

No.	事業名	担当課	ページ
1	若林区健康づくり区民会議	家庭健康課	1
2	若林区地域健康づくりちょいチャレンジ事業	家庭健康課	3
3	若林区安全安心街づくり活動推進事業	区民生活課	5
4	若林区民ふるさとまつり	まちづくり推進課	21
5	地域メディアの活用による〈新しい地縁〉創造プロジェクト	まちづくり推進課	24
6	合唱のつどい	まちづくり推進課	27
7	広瀬川灯ろう流し「光と水とコンサートの夕べ」	まちづくり推進課	30
8	若林区魅力発信事業 わくドキまち歩き	まちづくり推進課	32

昨年度報告事業数 8

令和6年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

家庭健康課

2. 事業名

若林区健康づくり区民会議

3. 事業の概要

「仙台市いきいき市民健康プラン」の実施に向け、平成14年度に若林区内の市民団体や教育機関、関係団体で構成する「若林区健康づくり区民会議」を設置した。そこで健康づくりの指針となる「若林区健康づくり行動計画」を策定している。現在、「第2期若林区健康づくり行動計画」のもと、区民協働の健康づくり事業として、健康づくりフェスティバルや健康づくり寸劇の制作・上演などによる健康づくり啓発を実施している。

実施にあたっては、関係団体により構成されている委員と、若林区の健康課題の分析や区民が取り組みやすい事業展開について検討している。

4. 事業の目的・ねらい

「区民会議」と行政とが協働で区民の健康づくりの推進を図ることを目的とする。

5. 事業の成果・効果

仙台市いきいき市民健康プラン（第3期）が策定されたことにより、区としても第3期若林区健康づくり行動計画策定に向け、区民会議の委員の方々や管理課・障害高齢課等の関連部署からの意見も踏まえながら取り組んだ。内容については、前計画での評価を踏まえつつ、若林区の健康課題解決に向けた取り組みについて盛り込んだ計画としており、次の区民会議（3/12）で委員の方々からの了承を得て、令和7年度から開始したいと考えている。

健康づくり寸劇は、コロナ前の依頼数まで増加。今年度は保育所・幼稚園等からの依頼が多く、生活習慣を確立するのに大切な幼少期にアプローチすることができた。また、健康づくりフェスティバルについても実行委員と協働で取り組み、多くの区民の健康づくりのきっかけになったのではないかと考えられる。

今年度より健康づくりの重点地区として沖野地区へ介入。初年度ということもあり、地域内の関係機関へ健康課題の共有を行い、協働して取り組みをしてもらえるよう働きかけ、次年度は地域団体と共催したトレジャーウォークを実施することとなった。

6. 事業費（決算額）

（見込額）

講師謝礼	26,000	食糧費	62,000		
消耗品	334,000	事務機器賃貸料	5,000		
印刷費	109,000	その他使用料	20,000	合計	556,000

7. 実施状況

実施時期	実施内容
6月	1) 第1回健康づくりフェスティバル実行委員会 2) 健康づくり寸劇 劇団員交流会 3) 健康づくり寸劇 上飯田第一町内会お茶っこサロン 4) " 二木町内会茶話会
7月	1) 第2回健康づくりフェスティバル実行委員会 2) 健康づくり寸劇 蒲町小学校6年生
9月	1) 第3回健康づくりフェスティバル実行委員会 2) 健康づくり寸劇 ぽっかぽかサロン
10月	1) 令和6年度 第1回 若林区健康づくり区民会議 2) 第4回健康づくりフェスティバル実行委員会 3) 健康づくりフェスティバル開催 4) 健康づくり寸劇 フェスティバルに出演 5) " 南小泉児童館 6) 若林区民健康ウォーク・ラジオ体操大会にて、げんきくん体操を実施
11月	1) 第5回健康づくりフェスティバル実行委員会（反省会） 2) 健康づくり寸劇 六郷小学校6年生
12月	1) 第5回健康づくりフェスティバル実行委員会（反省会） 2) 健康づくり寸劇 六郷保育園 3) " ドリーム幼稚園
1月	1) 健康づくり寸劇 上飯田横堀保育所 2) " 笹屋敷いきいきサロン
3月	1) 令和6年度 第2回 若林区健康づくり区民会議 2) 健康づくり寸劇 久保田東いきいきサロン（予定）
年間	健康づくり行動計画に連動して事業を実施 健康づくり寸劇練習会（計8回）

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

<p>区民会議の内容は、他課とともに検討していく。</p> <p>健康づくり寸劇については、劇団員の高齢化と担い手不足が課題として感じている。劇団員の募集をかけているが、反応が少ない。また、シナリオの内容に改善が必要なものがあり、今年度は朝ごはんや歯と口の健康、たばこに関するシナリオを子どもたちにわかりやすい表現に一部修正したが、すべての演目の修正までには至らなかった。次年度は、「なぜその健康づくりが大切なのか」を考えてもらえるようなものを含めたシナリオに修正したいと考えている。</p> <p>ウォーク・ラジオ体操大会は、開催時間が限られているため、短時間での啓発方法を工夫していきたい。</p>

9. 今後の事業の目標・展開等

<p>今年度、第3期若林区行動計画を策定することとなるため、次年度は新たな行動計画に基づいた健康づくり活動を展開していく。行動計画については、様々な場をとおして、区民に周知を図っていききたい。また、行動計画とあわせて若林区の健康課題（肥満傾向児の割合が高い・メタボリックシンドローム該当者割合が高い等）についても共有し、課題解決に向け、地区保健活動とも連動させながら、それぞれのライフステージにそった健康づくりのための取り組みを行っていく。</p>
--

令和6年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

家庭健康課

2. 事業名

若林区地域健康づくりちょいチャレンジ事業（沖野）

3. 事業の概要

沖野地区（中学校区）は、幼少期からの肥満傾向児の割合が特に高く、生活習慣の改善が必要な子どもが多いという特徴がある。沖野地区の子どもが健康な生活を送り、子どもや保護者だけでなく住民や地域団体も含めて、地域で健康的な取り組みを少しだけ実践（チャレンジ）することを目指し、健康づくり啓発事業を実施する。

4. 事業の目的・ねらい

沖野地区の住民をはじめ、子どもを取り巻く関係機関が沖野地区の健康課題を認識する。小児期の肥満対策および、望ましい生活習慣の定着に向けて、行政と連携・協働した取り組みが沖野地区で増える。

5. 事業の成果・効果

若林区地域健康づくりちょいチャレンジ事業は、令和6年度から8年度までの3か年を予定している。初年度ということもあり、まずは地域内の関係機関に健康課題を共有し、連携・協働して取り組みをしてもらえるよう働きかけたところ、積極的に協働したいという反応が聞かれ、予定していなかった新たな取り組みにもつながった。

また、若林区中央市民センターや沖野市民センターと共催で、謎解きと活動量アップと地元のまち歩きを組み合わせたトレジャーウォーク（健康ウォーキングイベント）を開催し、併せて生活習慣に関するクイズも行った。他、小中学校での授業や子ども食堂でのワークショップ等を通し、地域内の多くの子どもへアプローチすることができ、健康的な生活習慣を考えてもらえるきっかけづくりになったと考えられる。

6. 事業費（決算額）

（見込額）

講師謝礼	80,000
消耗品	155,000
印刷費	200,000
食糧費	22,000
合計	457,000

7. 実施状況

実施時期	実施内容
5月	1) 子ども食堂に健康レシピを配布
5～7月	1) 子育て関係機関（保育施設・幼稚園）11カ所を訪問し、健康課題の共有と情報交換の実施
7月	1) 若林区中央市民センター・沖野市民センターと共催で親子トレジャーウォークを実施 2) 沖野マイスクール児童館にて、生活習慣に関する講話を実施 3) 沖野児童館の児童クラブ保護者説明会にて沖野地区の健康課題を説明
9月	1) 沖野小学校4年生、沖野東小学校4年生に生活習慣病予防や健康づくりについての授業を実施 2) 沖野団地秋祭りに参加し、健康課題の共有と握力測定会の実施
11月	1) 沖野小学校6年生、沖野東小学校6年生に生活習慣病予防や健康づくりについての授業を実施 2) 中河原町内会夢クラブにて、運動講話を実施
12月	1) 沖野中学校2年生に生活習慣病予防や健康づくりについての授業を実施 2) ドリーム幼稚園にて、「歯と口の健康づくり」の健康づくり寸劇の上演 3) 沖野団地自治会にて、栄養講話を実施
1月	1) 上飯田横堀保育所にて「早寝早起き朝ごはん」健康づくり寸劇の上演 2) 沖野・六郷地域の保育施設を対象とした情報交換会へ参加 3) こども食堂にて健康すごろくと栄養講話を実施、健康レシピを活用したメニューの提供
2月	1) 次年度の親子トレジャーウォークに向けた打ち合わせを実施
通年	1) 沖野マイスクール児童館へ糖分量パネルの通年展示と1年間児童館だよりに啓発記事の掲載を依頼

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

親子トレジャーウォークやこども食堂のワークショップ等、電子申請を活用し様々な機会でも周知したが集客が少ない。協働先と周知方法を再検討し展開していく予定である。

事業終了後も見据えて、地域に当事業の取り組みや健康づくりの要素が入った活動が根付くように事業展開の手法を協働先と検討していく必要があるため、今年度の協働機関とは取り組みの振り返りを行い、次年度計画に活かしていく予定である。

9. 今後の事業の目標・展開等

重点事業（令和6～8年度）として、子どもを取り巻く関係機関や住民等と連携・協働し、啓発活動及び健康教育やウォーキングイベント、ワークショップ等を継続展開する。

今年度新たに作成した、子どもの望ましい生活習慣に関する啓発媒体（チラシやクリアファイル）を活用し、子育て・教育機関訪問や地域の会議や集いの場で、支援者や住民へ子どもの健康実態を普及し、健康づくりに対する機運を高めていく。

事業の波及効果を図るために、事業に参加した子どもと保護者毎に、健康課題の認識や健康意識の変容をみるアンケートを実施しており、引き続きアンケートを取り今後結果分析を行う。併せて、子どもを支える関係機関や住民向けに、事業の協働をきっかけに健康意識の変容が生じたかを図るアンケート等を作成中のため、実施・評価していく。

令和6年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

区民生活課

2. 事業名

若林区安全安心街づくり活動推進事業

3. 事業の概要

過去に「安全安心街づくり活動推進モデル地区事業」を展開した地区を中心に、啓発活動などへ参加し事業を展開した。前年度は、全国地域安全運動期間（10/11～10/20）を中心に実施したが、今年度はそれ以外の期間においても実施した。

具体的には、南材地区において防犯協会が主催する、金融機関周辺での街頭啓発活動や地区の夏祭り会場での啓発活動など各種活動に参加した。

また、連坊地区、若林地区及び六郷地区においても、防犯協会が主催する啓発活動に参加したほか、若林区民まつり会場でも自転車の安全運転と同時に自転車の盗難防止を呼びかける啓発活動を実施した。

その他、東北学院大学五橋キャンパスにおいて同大学、警察署及び青葉区役所と合同で自転車の交通安全及び地下鉄車内における痴漢防止を呼びかける啓発活動を実施した。

4. 事業の目的・ねらい

「仙台市安全安心街づくり条例」第2条（「この条例において「安全安心街づくり」とは、犯罪の防止に関する自主的な活動、犯罪の防止に配慮した環境の整備その他の犯罪の発生する機会を減らすための取組をいう。」）の内容に沿った活動を行っている団体への支援を行うことを目的とした事業である。

本事業では、過去にモデル地区事業を展開した地域のフォローアップを目指し、地域団体からそれぞれの地域における課題や要望等を把握したうえで啓発活動をはじめとする各種活動を展開した。

5. 事業の成果・効果

令和6年12月末時点において、本区における刑法犯認知件数は、前年同期比で-6件と減少しており、累計件数も636件と仙台市内5区の中で最も少なかった。また、検挙件数も224件と最も少なく、前年同期比でも-72件と5区の中で唯一減少していた。

このことから、日頃各団体が実施している活動の成果が上記の結果に影響を及ぼした可能性は否定できない。これらに本区が関わったことについても意義があったものと思量される。

今後もこの結果に満足することなく、引き続き各団体の活動に関わってきたい。

6. 事業費（決算額）

(見込額)
 講師等謝礼 11 千円 消耗品費 213 千円 印刷製本費 80 千円 食糧費 4 千円
 合計 308 千円

7. 実施状況

	実施時期	実施内容
①	令和6年5月14日 令和6年10月11日 (全国地域安全運動期間)	南材地区町内会連合会主催の環境美化活動に参加。 ゴミ拾いを行うと同時に、防犯意識の向上を目的とした街頭啓発活動を行った。
②	令和6年6月14日他 (毎月15日前後)	南材地区防犯協会が主催する金融機関及びその周辺における特殊詐欺防止啓発活動に参加し、特殊詐欺被害の防止を目的とした街頭啓発活動を実施した。
③	令和6年6月22日 令和6年10月27日	南材地区町内会連合会が主催する環境美化を目的とした広瀬川河川敷「ふれあい広場」にて花壇の整備を行う活動に、地区内の各町内会代表、八軒中学校並びに南材木町小学校とともに参加した。
④	令和6年7月4日 令和6年11月12日	東北学院大学、仙台中央警察署、若林警察署、交通安全協会、交通指導隊、青葉区区民生活課と共同で東北学院大学五橋キャンパス周辺にて、自転車の安全利用とヘルメット着用、ならびに痴漢被害防止を呼びかける街頭啓発活動を行った。
⑤	令和6年7月9日	若林警察署、若林区防犯協会連合会、若林区少年補導員協会、宮城県宅地建物取引業協会若林支部、聖和学園高等学校、仙台市交通局と共同で、高校生及び地下鉄利用者に対し、痴漢をはじめとする性犯罪防止及び自転車盗難防止を呼びかける広報を実施した。
⑥	令和6年7月27日	南材地区町内会連合会主催の夏祭り会場にて、主に南材地区防犯協会と一緒に会場に訪れた子どもに対し防犯啓発グッズを配布し、防犯意識の向上を図った。
⑦	令和6年10月17日 (全国地域安全運動期間)	連坊地区町内会連合会主催の交通・防犯・防火等安全安心キャンペーンの一環として実施された街頭パレードに参加
⑧	令和6年11月21日	六郷地区防犯協会の青色回転灯パトロール車出動式に参加。 その後、区のパトロール車にて地区内を巡回。
⑨	令和7年1月	特殊詐欺への注意を呼びかけるマグネットシートを作成し、区内を巡回する青色回転灯付き防犯パトロール車（青パト）や公用車に貼付した。

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

前述のとおり、昨年度は全国地域安全運動期間中における啓発活動が多かったが、今年度はそれ以外の期間にも実施した。

また、昨年度の課題として、働きかけた団体が地区防犯協会のみであったことから、東北学院大学など防犯協会以外の団体との協働による実施も始めているが、まだ割合的には多くない状況のため、今後も防犯団体以外の団体と協働で実施できるよう働きかけを続けていく。

9. 今後の事業の目標・展開等

今後の事業展開については、各団体とも折衝しつつ、事業を実施する地域の課題やニーズを把握しつつ、同時に顔の見える関係の構築を目指して進めていく。

① 南材地区安全安心街づくりパレードについて

- 1 日時 令和6年 5月14日(火) 10時00分～11時30分
令和6年10月11日(金) 10時00分～11時30分
- 2 場所 南材地区(南材コミュニティセンター集合)
- 3 参加者 南材地区単位町内会員、南材地区防犯協会、河原町交番所員、
若林区役所職員等、合計60人

4 内容

南材地区内を3グループに分かれ巡回し、ごみ拾いや落書きがある場合には消去作業を行うといった環境美化活動を実施した。

落書きは報告されなかったが、ごみは数か所でみられ、回収を行った。

整備された環境下では、非行を起こそうという心理状態に陥りにくいといったことが近年明らかになってきており(割れ窓理論)、今後も防犯に係る啓発活動と併せて、非行の起こりにくい環境整備という面で安全安心街づくりに係る活動に取り組みたい。

活動の様子

【5月14日】



【10月11日】



② 南材地区防犯協会における防犯キャンペーンについて

実施日時:令和 6 年 6 月 14 日(金)10:00~11:00
令和 6 年 7 月 12 日(金)10:00~11:00
令和 6 年 8 月 15 日(木)10:00~11:00
令和 6 年 9 月 13 日(金)10:00~11:00
令和 6 年 10 月 15 日(火)10:00~11:00
令和 6 年 12 月 13 日(金)10:00~11:00
令和 7 年 1 月 15 日(水)10:00~11:00
令和 7 年 2 月 14 日(金)10:00~11:00

実施場所:七十七銀行河原町支店及び周辺商業施設

相手方:南材地区防犯協会

実施内容

金融機関出入り口付近及び周辺商業施設周辺において、区内で特殊詐欺被害が増加している旨を伝えながら、チラシや啓発用品の提供を行った。

怪しい人物から電話がかかってきたときは、すぐに電話を切ること、電話口でのお金の話は信用しないことを呼び掛けることで、地域の防犯意識の向上に努めた。

活動中の写真



R6.6.14



R6.7.12



R6.8.15



R6.9.13



R6.10.15



R6.12.13



R7.1.15



R7.2.14

③ 令和6年度 広瀬川ふれあい活動について

日時:令和6年 6月22日(土) 午前10時00分～午前11時00分
令和6年10月27日(日) 午前10時00分～午前11時00分

場所:広瀬川河川敷 広瀬橋下流側花壇周辺

参加者:南材地区町内会連合会、仙台市立南材木町小学校、仙台市立八軒中学校、
若林区区民生活課 (約80名)

● 実施内容は以下のとおり

(6月) 昨年度に引き続き、秋に植えた花の植替え、及び花壇周辺の整備を行った。

当初の予報では雨だったが、晴天であった。

日差しは強かったが、風が吹いていたため、活動中に体調を崩す方はおらず、無事活動を終えることが出来た。

各団体がテーマを決め、それぞれが受け持つ花壇において花植えを行っていた。

- ・南材地区町内会連合会…地域の絆が広がることを願い、ハート型で植えた。
- ・八軒中学校…地域を明るく照らせるように太陽の形で植えた。
- ・南材木町小学校…安全安心を願い、五輪の形で植えた。

(10月) 6月に植えた花の植替え、及び花壇周辺の整備を行った。

秋も深まる時期であるが、例年より気温は高めで好天にも恵まれたおかげで無事に活動終了できた。

今回のテーマは以下の通り

- ・南材地区町内会連合会…川の中に石を投げた時にできる輪の波紋をイメージ
- ・八軒中学校…八軒の文字を花壇に思いを込めて植えた
- ・南材木町小学校…南材のシンボルマーク★の形で植えた

本年度は、防犯啓発のため、参加者へウェットティッシュ(80個)を配布した。

町内会連合会の区域内で居心地の良い空間を創出することは、環境の美化はもちろん、安全で安心な街づくりにつながると考えられるため、今後も可能な範囲で参加団体と協力して実施する本取組みに参画していきたい。

● 以下、活動の様子
(6月22日)



(10月27日)



④ 東北学院大学五橋キャンパス周辺における啓発活動について

- 1 日時 令和6年 7月4日(木)8時00分～9時00分
令和6年11月12日(火)8時00分～9時00分
- 2 場所 地下鉄南北線五橋駅周辺の歩道上
開会式と閉会式は東北学院大学五橋キャンパス内にて実施
- 3 参加者
青葉区区民生活課、若林区区民生活課
宮城県仙台中央警察署交通課
宮城県若林警察署交通課
交通安全協会五橋支部(青葉)、交通安全協会荒町支部(若林)
交通指導隊中央地区分隊(青葉)、交通指導隊荒町分隊(若林)
東北学院大学学生課・地域連携課等
東北学院大学五橋キャンパス学生ボランティア

4 内容

地域における自転車利用者の交通ルール遵守・マナー向上を図るため、学校や、交通安全関係団体、警察、行政等が互いの連携を図り、地域ぐるみによる取り組みの一環として、自転車利用者や学生に対して自転車の安全利用やヘルメットの着用など呼びかける啓発活動を行った。本年度は、併せて地下鉄をはじめとする公共交通機関における痴漢防止の呼びかけも併せて実施した。

地域交通安全推進員や学生ボランティアの方々が積極的にグッズ配布を行ったことから、用意したグッズは予定よりも早く配布完了した。

徐行せずスピードを出したまま通過する自転車が多く見られ、これらの人々へどう呼びかけるかが課題となった。

活動の様子

【7月4日】



(前項より)



【11月12日】



⑤ 地下鉄東西線薬師堂駅前防犯キャンペーンについて

1. 日時 令和6年7月9日 7時30分～8時15分
2. 場所 地下鉄東西線 薬師堂駅前及びロータリー周辺
3. 参加者 聖和学園高等学校生徒、教員

若林区防犯協会連合会
若林地区少年補導員協会
宮城県宅地建物取引業協会若林支部
仙台市交通局、若林区役所
宮城県警察本部県民安全対策課、若林警察署
計40名

4. 内容

通学時に公共交通機関を利用することが多い高校生及び地下鉄利用者に対し、痴漢をはじめとする性犯罪防止及び自転車盗難防止を呼びかける広報を実施した。

当日はあいにくの雨天であったが、痴漢被害が多く発生する時期をとらえ、警察をはじめとする行政機関、事業者並びに被害に遭う可能性の高い高校生が一体となって呼びかける広報活動は痴漢撲滅と防犯意識の向上に効果的であった。

活動中の写真



【集合写真】



【地下鉄駅入り口での広報活動】



【高校生による被害防止広報】



【配布した啓発用品】

⑥ 南材夏まつりにおける防犯啓発活動について

1. 日時
令和6年7月27日(土)11時00分～11時30分
2. 場所
南材木町小学校 校庭
3. 参加者
地区内の幼児、児童、生徒、その保護者及び夏まつり実行委員会関係者等 300人以上
4. 活動内容
子どもを対象とした防犯啓発活動を行った。
主として地区防犯協会が中心となり、町内会連合会及び社会を明るくする会のメンバーが会場内を回り、子どもやその保護者に防犯啓発グッズを配布した。
配布グッズは昨年度と同じものを用い、数量も300個と同じ数用意した。
当日はあいにく雨天であったが、太鼓演奏などを体育館内で行うなど予定通り実施された。
来場者数も昨年よりは少なかったが、30分ほどで配布完了した。
地域の防犯意識の高さを裏付けるようなイベントであった。

【会場内の様子】



⑦ 連坊地区における防犯キャンペーンについて

実施日時:令和6年10月17日(木)13:30~15:00

相手方:連坊地区町内会連合会

若林地区交通安全協会連坊支部

連坊地区防犯協会

交通安全母の会連坊支部

女性防火クラブ連絡協議会連坊支部

若林警察署連坊交番

計 60 名参加

上記日程において実施された標記の活動について、概要は下記の通り。

実施内容

下記のコースを各団体のメンバーがパレードを行い、防犯、防災及び交通安全の意識高揚を図った。

光寿院前→東八番丁通り→連坊通り→地下鉄東西線連坊駅東口→仙合一高前→須賀神社境内

区役所は青色回転灯パトロールカーにて参加者の安全確保と拡声器使用による啓発活動への協力を実施した。

活動中の写真



⑧ 六郷地区防犯協会における青パト出動式について

実施日時:令和 6 年 11 月 21 日(木)16:00~17:00

相手方:六郷地区防犯協会
六郷地区町内会連合会(会長)
地区内各单位町内会
若林警察署六郷交番

上記日程において実施された標記の活動について、概要は下記の通り。

実施内容

開催場所に集合し、六郷地区防犯協会長、町内会連合会長、六郷交番署長、本区職員が挨拶を行い、地区の青色回転灯パトロール車の出動号令を行う出動式を開催した。

式後は、数班に分かれて青色回転灯を点灯しつつ、六郷地区内を巡回した。

【活動中の写真】



⑨ 特殊詐欺防止啓発用のマグネットシート作成

1. 目的

全国的に年々増加している則種詐欺の被害の拡大防止を図るため、周知・啓発の取り組みの一環として、特殊詐欺への注意を呼びかけるマグネットシートを作成した。

2. 内容

区役所保有の公用車のみならず、防犯協会が運用する青色回転灯付き防犯パトロールカー(5団体)をはじめ若林警察署の公用車(パトカー以外)に掲示を依頼している。

3. 作成枚数

令和6年度 24枚(1台2枚換算で12台分)

4. 作成費用

1枚 3,300円(消費税込み)

5. マグネットシートの図柄

別紙のとおり

公用車への掲示状況



区役所保有の青パト



同 シート部分の拡大

令和6年度 区民協働まちづくり事業（企画事業）実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区まちづくり協議会（まちづくり推進課）

2. 事業名

第36回若林区民ふるさとまつり

3. 事業の概要

区民による実行委員会が主体となって、区民の総合的な交流の場を提供し、地域の交流推進と活性化を図る。区民の文化芸術活動の発表（ステージパフォーマンス、わたしの作品展、学校じまん）や地域資源を活用した企画（ザリガニ釣り、弟子入り体験教室、若林の文化財展など）、地元物産の販売などを行う。

4. 事業の目的・ねらい

若林区内における総合的な交流の場を提供することにより、区民意識の高揚や地域の活性化を図るとともに、区民協働によるコミュニティづくりを目指す。

5. 事業の成果・効果

開催テーマ：「元気にいこう！わかばやし～広がれ、つながれ、みなぎれチカラ～」

昨年に引き続き「元気にいこう！わかばやし」をメインテーマとした。さらに、各地で様々な災害が起きている中で、東日本大震災の際に仙台市若林区も多大なる支援を受け、元気を取り戻したことから、今度は若林区が各地に元気を届けたいという想いを込めてサブテーマも組み入れた。

● 区民協働による若林区最大のイベント

- ・主に若林区民を中心とした23名の実行委員とまちづくり推進課（事務局）で構成される「若林区民ふるさとまつり実行委員会」が当日までの準備を担った。
- ・まつり当日は実行委員だけでなく、若林区に関わりのある多くの団体から協力を得ており、当日従事するスタッフは100名を超えた。まつりへの主な参加・出店団体は、区内の民間企業、官公庁、福祉団体、学校、個人団体など、多様な人が関わっている。
- ・多様な主体が協力してイベントを作り上げたこと、若林区ならではの企画を実施したことで、運営側及び来場者双方の若林区への愛着の醸成や区民意識の高揚に寄与したと考える。

● 昨年度との主な変更点

- ・東北学院大学と若林区との連携協力事業の一環により、6名の学生がまつりの企画運営に携わり、学生が主体となって「クイズラリー」「手形アート」2つの企画を実施した。当日は両企画とも開始当初から、子どもや親子連れで行列が絶えず、

<p>大人気企画となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衆議院議員総選挙期日前投票と区民まつり開催日が重なり、急遽会場レイアウトを一部変更して開催した。 <ul style="list-style-type: none"> ● 収支改善への取組 <ul style="list-style-type: none"> ・昨今の価格高騰の影響により、今年度は収支の見直しが喫緊の課題であったため、年度当初に収支予測や他区のデータを示し、予算に対する実行委員会への意識付けと収入増、費用減への理解を得た。具体的には、出店料引き上げにより、昨年比で約13万円の収入増となり、費用面では、広報費や会場設営費の見直しなどを行い、約71万円の費用減となった。 <ul style="list-style-type: none"> ● 主な実績値 <p>来場者数：20,000人（昨年度20,000人）</p> <p>出店団体数：39団体</p> <p>出演団体：19団体</p> <p>ボランティア数：約80名（東北電力ネットワーク、区体育振興会、東北学院大学生、東北農業テック&カフェ専門学校学生、交通指導隊、看護協会、聖和学園高等学校、青葉短期大学など）</p> <p>協賛金：79件（890,000円）</p>

6. 事業費（決算額）

<p>（見込額）</p> <p>5,783,687円（財源 仙台市共催負担金4,350,000円 協賛金、繰越金等）</p> <p>内訳：総務費422,351円 おまつり費5,102,881円</p> <p>特別企画費258,455円</p>

7. 実施状況

実施時期	実施内容
令和6年	
5月16日（木）	第1回実行委員会
6月7日（金）	第2回実行委員会
7月18日（木）	第3回実行委員会
8月26日（月）	第4回実行委員会
9月14日（土）	おまつり広場・ステージパフォーマンス・フリーマーケット 参加者説明会
9月19日（木）	第5回実行委員会
10月9日（水）	第6回実行委員会
10月20日（日）	第36回若林区民ふるさとまつり
11月27日（水）	第7回実行委員会
その他班会議	
・庶務班会議3回	・広報班会議4回
	・わたしの作品展班会議3回

・特別企画班会議 4回 ・健康づくりフェスティバル実行委員会 5回

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

・長年、若林区民ふるさとまつりの人気企画として実施してきた「弟子入り体験教室」の参加団体が職人の担い手不足や高齢化を理由として、年々減少しており、今年度については1団体のみであった。加えて若林区内の教育機関が自身の学校をステージ上で自慢する企画「学校じまん」もコロナ禍以降、参加学校が少なくなっている。このことから、参加団体へのアプローチ、もしくは、地域資源を活用した新しい企画の検討が必要である。

・来年度は若林文化センターの大規模改修工事が終了し、区民の文化芸術の場として開催している「わたしの作品展」を以前の規模に戻す見込みであるため、さらなる会場費の増加が見込まれる。このように、毎年度、状況が変化する中でも、区民に愛され、若林区に根付いたこのまつりを今後も継続して開催するためには、適宜、収支の見直しが必要である。

9. 今後の事業の目標・展開等

・今年度、他の区民協働まちづくり事業の費用削減も図り、その事業費を来年度の区民まつりへの負担金に配当する予定である。来年度以降も適正な収入や費用について、実行委員会の理解を得ながら、継続して収支の見直しを行っていききたい。

・実行委員の固定化、高齢化は慢性的な課題であるが、解決策が見出せない状況が続いていた中で、東北学院大学との連携協定後、初めて企画・運営に携わってくれた学生が「何らかの形で来年度もまつりに携わりたい」という意見があった。このように、参加してくれた学生が一過性の関わりに留まることなく、継続して関われる機会を持つこと。そして、来年度新しく企画運営に携わる学生も同様に「来年度もまつりに携わりたい」と思ってもらえるよう、繋がりを保持していききたい。

令和6年度 区民協働まちづくり事業（企画事業）実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区まちづくり協議会（まちづくり推進課）

2. 事業名

地域メディアの活用による創造プロジェクト（「ラジオはいらいん若林」制作・放送）

3. 事業の概要

地域の魅力を探索し発信するため、区民スタッフがコミュニティFM（ラジオ3）の協力を得ながら、番組の企画・制作を行い、放送するもの。

4. 事業の目的・ねらい

区民とコミュニティFM放送との協働・連携により地域情報の探索、番組制作及び区民に向けた公開放送を行う。それにより、区民のコミュニティ意識を高め、さまざまな角度から地縁に対する再認識とともにまちづくりへの気運醸成を図る。

5. 事業の成果・効果

今年度は、7月3日から3月26日まで18の放送番組を企画・制作した。

計4回の全体会を行い、取材先や取材内容の協議、事業の振り返りを実施した。

区内の大学や、共生まちづくりのフィールドワークに関心が高い大学研究室から5名の学生スタッフが参加し、新たな視点での取材先の探索にもつながった。また、昨年度から継続で参加する学生、地域に携わる就労先を希望するようになった学生や次年度も参加を希望する学生もおり、若者に地縁を認識してもらうきっかけになった。

地域でのイベントや新規出店の店舗、地元企業への取材など多様な取材を行い、恒例となっている声の年賀状には区長と学生が出演した。2月には、河原町にある針惣旅館にできた食事処「yosemite」にて取材と全体会議を行い、スタッフ15名が集った。番組を通して、リスナーが若林区を知るきっかけを作り、スタッフとともに地域の魅力の掘り起こしに貢献できた。

○若い世代へのアプローチ

昨年度に引き続き、「Spotify」での番組アーカイブとラジオ3のXを使用した情報発信を実施。スタッフにも5名の学生が加入し、全10番組の企画発案・制作を行った。

新たに加入した区民スタッフの提案で、文化や観光にこだわらず、若者の就労に繋がる地場企業への取材も行った。次年度も継続して区民スタッフと学生スタッフが協力して地域の魅力を知って、発信していける体制を構築したい。

○区民スタッフの負担軽減

飲食店への取材に際しての食糧費の負担軽減を行った。学生スタッフの参加により、スタッフ一人あたりの取材回数も2、3回に落ち着き、結果として負担の軽減に繋がった。また、今年度新たに、取材先でのケガ等に備えスタッフ全員の活動保険の加入を行った。

6. 事業費（決算額）

（見込額）

1,010,000円（仙台市補助金 1,050,000円）

委託料(ラジオ3)…960,000円 消耗品費…25,000円 食糧費…25,000円

7. 実施状況

実施時期	実施内容				
5月22日	第1回全体会議（7月～9月の放送内容の決定）、取材方法等の確認				
8月21日	第2回全体会議（10月～12月の放送内容の決定）、取材方法等の確認				
11月14日	第3回全体会議（1月～3月の放送内容の決定）、取材方法等の確認				
2月27日	第4回全体会議 1年の振り返り、次年度の企画に関する方向性等				
<ul style="list-style-type: none"> 放送期間：令和6年7月6日～令和7年3月22日 本放送：第1・第3土曜日午前10時～10時30分 再放送：第2・第4土曜日午前10時～10時30分 制作本数：18本 					
No.	放送日	テーマ	No.	放送日	テーマ
1	7/6 7/13	夏色ドロップス	10	11/16 11/23	河原町マルシェ
2	7/20 7/27	「せんだい海手線ループバス」 「ぐるっと、海手」	11	12/7 12/14	旬采×パスタDACCHA
3	8/3 8/10	駄菓子屋かみふうせん	12	12/21 12/28	パストラル・ハーブ ミニストーリー
4	8/17 8/24	深沼海水浴場について	13	1/4 1/11	声の年賀状 ① 高橋洋子若林区長 ② 清野さん(学生スタッフ) ③ 二階堂さん(学生スタッフ)
5	9/7 9/14	ゲストハウスHostel KIKO	14	1/18 1/25	毘沙門天のどんと祭
6	9/21 9/28	陸奥国分寺薬師堂 前編	15	2/1 2/8	株式会社AZOTH(アゾット)
7	10/5 10/12	第36回若林区民ふるさとまつり	16	2/15 2/22	IGOONE ARAI
8	10/19 10/26	陸奥国分寺薬師堂 後編	17	3/1 3/8	かえりびな
9	11/2 11/9	仙台若林みんなのマルシェと大道芸	18	3/15 3/22	複合施設HARISO

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

ラジオを聴く環境がない方や放送時間帯に聞けない場合があるため、「Spotify」でのアーカイブ放送の体制を構築した。一人でも多くの方が聞くことを出来るよう放送やアーカイブの周知を市ホームページや全戸配布する協議会の会報にて行っているが、広報の拡充をしたいと考えている。広報拡充方法そのものと広報のための予算の捻出が課題。

スタッフは、取材先の検討や取材を積極的に実施してくれているが、取材拒否をされてしまうこともある。また、取材先によっては交通費負担も大きくなる。取材交渉や取材先への送迎について職員が行うなりして対応しているが、スタッフひとりひとりの負担を低減するためにもスタッフの増員が課題。

9. 今後の事業の目標・展開等

番組を知ってもらいリスナーを増やす工夫として開始した「Spotify」でのアーカイブ放送は継続しつつ、広報予算の拡充や費用をかけない広報を検討する。

今年度は、大学生4名と区民1名が新たにスタッフとして加わり、また、若林区まちづくり協議会活動への学生ボランティアに対する交通費の一部支給が可能となった。若者に若林区の魅力や地縁を知ってもらい、企画・制作にかかる個人への負担が大きくなるよう大学生の勧誘や区民スタッフの公募活動を継続する。

学生スタッフの参加が第2回の全体会からになり、序盤の放送は人員が不足しがちとなるため、スキームを見直し、第1回の全体会に間に合えるよう検討を行う。

令和6年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区まちづくり協議会（まちづくり推進課）

2. 事業名

第31回「若林区合唱のつどい2024」

令和6年7月6日（土） 聖和学園高等学校薬師堂キャンパス サールナートホール

3. 事業の概要

区内の小学生から大人までの幅広い世代が参加する合唱の発表会を、若林区合唱のつどい実行委員会（合唱連盟わかばやしと若林区まちづくり協議会で構成）が運営し開催するもの。

例年会場となっている若林区文化センターは、大規模改修工事で使用できなかつたため、昨年度に引き続き聖和学園様より薬師堂キャンパスの施設を提供いただき、今年度も開催することができた。

- ・ 開催日：令和6年7月6日（土）
- ・ 場 所：聖和学園高等学校薬師堂キャンパス サールナートホール
- ・ 参加団体：14 団体（うち 10 団体は合唱連盟）

4. 事業の目的・ねらい

若林区内の小・中・高の合唱団や吹奏楽部、「合唱連盟わかばやし」加盟の団体等が参加し、合唱を主体とした音楽祭を開催することで、地域の方々との触れ合いや交流を図るとともに、地域文化活動の活性化を目指す。

5. 事業の成果・効果

今年度は、「合唱連盟わかばやし」に加盟する 10 団体、区内の中学校が 1 校、高校が 1 校、福祉関係が 1 団体、そして若林区より声がけした荒井を拠点に活動するシンガーソングライターと合唱サークルが参加した。また、聖和学園高等学校のチア部と吹奏楽部に特別出演として三神峯キャンパスから来ていただき、演奏会に華を添えていただいた。参加人数は 400 名程度であった（昨年度 500 名程度）。

公募して結成する区民合唱団「^{そら}宙」は、練習場所として利用してきた若林区文化センターが使用できなかつたため、募集は行わなかつた。

6. 事業費（決算額）

(見込額)	
278,000 円（うち仙台市補助金 231,000 円）	
(内訳)	
印刷費	52,000
謝礼等	130,000
著作権使用料	12,000
消耗品代	30,000
食糧費	54,000
合計	278,000

7. 実施状況

活動年月日	活 動 実 施 内 容
4月11日	運営委員会(第1回)
4月26日	運営委員会(第2回)
4月26日	若林区内の小・中・高への参加案内通知
5月24日	開催チラシ印刷
5月25日	聖和学園高等学校との打合せ
5月25日	開催ポスター作成
5月25日	公共施設等チラシ配布依頼
6月1日	市政だより(開催のお知らせ)
6月2日	参加団体全体会議
6月13日	来賓の案内通知
6月14日	出版物許可申請
6月15日	運営委員会(第3回)
6月27日	プログラム印刷
7月2日	合唱のつどい本番
8月7日	運営委員会(第4回)
9月26日	運営委員会(第5回)
11月21日	運営委員会(第6回)
1月23日	運営委員会(第7回)
3月4日	運営委員会(第8回)

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

若林区合唱のつどい実行委員会の構成メンバーとなっており、会の運営を担っている「合唱連盟わかばやし」の高齢化が進んでおり、加盟団体も減少している。さらに区内の小中高生の合唱団の活動も鈍化しており、出演者、来場者の減少が著しい。

一般の合唱サークルや吹奏楽部の参加について、区役所からも提案している。しかし合唱連盟側では、連盟に加入していない一般合唱団の参加や吹奏楽やダンスといった文化活動を広く結びつけることについては消極的な状況である。

9. 今後の事業の目標・展開等

若林区内の文化活動の活性化という観点では、若林区文化センターを会場にし、幅広い世代の交流を行える事業として持続していきたい。

そのため、幅広い団体への参加を合唱連盟わかばやしに理解いただくよう引き続き問題提起をしていきたい。併せて、参加者を増やし、さらなる交流と地域文化活動の活性化を図る方策について、「合唱のつどい」事業の再構築についても若林区まちづくり協議会と検討していきたい。

令和6年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

広瀬川灯ろう流し実行委員会 （若林区まちづくり推進課）

2. 事業名

第35回広瀬川灯ろう流し“光と水とコンサートの夕べ”

3. 事業の概要

広瀬川の河川敷（宮沢橋～広瀬橋）に特設会場を設営し、野外コンサート、花火打ち上げ、灯ろう流し、縁日コーナーを開催する。

- ・ 開催日 令和6年8月20日（火）
- ・ 開催時間 午後1時～午後9時
- ・ コンサート 地元の中学生による吹奏楽の発表その他公演
- ・ 花火打ち上げ 午後7時45分～午後8時30分（予定）

4. 事業の目的・ねらい

全国的に知られ仙台市民の誇りである広瀬川にまつわる歴史・文化に触れる機会を創出することを事業の目的とし、参加者が改めて広瀬川の自然を認識できることをねらいとする。

5. 事業の成果・効果

- ・ 来場者数はのべ4万人であった。
- ・ 地元中学校や地域団体の参加、警察・消防等の協力で、住民参加の催事を事故等なく開催することができた。
- ・ 今回は花火を開催し、応援観覧席の設置、近隣商店街への来街者も多く、飲食店への来店顧客・デリバリーの顧客増に繋がった。

6. 事業費（決算額）

12,863,621円

※財源として、仙台市より補助金2,836,000円

若林区 1,418,000円（会場設営費）

太白区 1,418,000円（警備人件費、広告宣伝費）

7. 実施状況

実施時期	実施内容
令和6年2月18日	事務局担当者会議（開催の検討・役員改選他）
3月22日	若林区まちづくり推進課・公園課事前打合せ
4月19日	若林警察署地域課打合せ
5月15日	第1回全体会議（役員選任・事業概要説明・承認）
5月27日	事務局専担者会議（会場設営確認）
6月4日	事務局専担者会議（花火協賛・広告協賛）
6月28日	事務局専担者会議（進捗状況確認・花火観覧エリア確認）
7月17日	安全対策会議（楽楽楽ホール 若林警察署他）
7月25日	第2回全体会議
8月20日	開催当日 広瀬川灯ろう流し“光と水とコンサートの夕べ”開催
8月21日	現場清掃作業
10月9日	監査会開催
10月18日	報告会開催（たいはっくる 大会議室）

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

今回は「メッセージ花火」を企画、応援観覧席の設置を導入し、運営資金捻出に努めた。各商店街において募金活動・広告協賛活動により、市民及び商店街各店の方々の多大なる支援をいただきながら開催できたことに感謝するとともに、あらためて本行事が地域の催事として受け入れられていると認識したところである。

今回は、花火開催を復活し多くの来場者を受け入れる状況となった。雑踏警備体制を強化し安全対策になお努めて参りたい。

来期については、花火打ち上げは、鎮魂とともに夏の終わりを感じさせ、来場者に大変喜ばれているようで、市民の安全を第一とし、今後も事故がないよう対策していく。

ボランティアの協力が大きく、当日の運営がスムーズに進められ、今後の大会実施には欠かせないものとする。

9. 今後の事業の目標・展開等

太白区・若林区両区の夏の催事として事業を継続していくため、前回の目標同様に、実行委員会のみならず、地元の商店街スタッフや地元住民を巻き込んで、市民ボランティア等の知恵とマンパワーを拝借し、当日の運営や費用捻出を安定的なものにしていきたい。また、ホームページを活用し、広報活動・協力金の募集・ボランティアの協力等の情報発信を引き続き行っていく。

令和6年度 区民協働まちづくり事業（企画事業） 実績概要報告書

1. 主催者（担当課）

若林区まちづくり協議会（事務局 若林区まちづくり推進課）

2. 事業名

若林区魅力発信事業（若林わくドキまち歩き）

3. 事業の概要

若林区に対する愛着や興味を促進させるとともに、地域の魅力を体感できるイベントとして、まち歩きを実施する。

4. 事業の目的・ねらい

若林区の歴史的な街並みなど、他区とは一味違う魅力を区内外の方に知ってもらい、興味・関心を持ってもらうことを目的とする。行政と区民の方が協働でまち歩きコースを企画することにより、地域資源を認識して継承していくとともに、地域の新たな魅力の発見をねらいとする。

5. 事業の成果・効果

今年度は全3回のまち歩きを開催した。毎年4月に恒例となっている花見を含む連坊～新寺周辺を巡るまち歩きは、仙台一高や寺社の境内を散策して桜を楽しむとともに、地域の歴史を学ぶことができ、他地域から仙台に移住した参加者からも好評だった。

今年度から新たに、学生スタッフの募集を行ったところ3名の申込があり、第2回のまち歩き開催日から参画してもらった。

第3回のまち歩きでは、企画段階から学生スタッフが参画した。東日本大震災から13年という節目であることから、震災の復興と、海浜エリアの今後の展望について知ってもらう趣旨で、沿岸部の震災遺構を中心にバスで巡るコースを企画した。定員に対する応募人数は他の企画より少なかったが、震災後初めて荒浜を訪れた被災者の方もおり、参加者の関心や満足度がとても高かった。

また、まち歩きの参加申込について、往復はがきだけでなく、昨年度に引き続き電子申請を継続した。実際に電子申請を利用した申込者は全体の約6割であった。

6. 事業費（決算額）

○収入 176,000円

内訳（仙台市助成金：150,000円 事業収入（参加費@500円）：26,000円）

○支出 176,000円

内訳（保険料：4,200円 ガイド謝礼等：20,000円 バス借上等：54,450円

参加者お土産代：39,750円 消耗品費・雑費：57,600円）

7. 実施状況

実施時期	実施内容
4/6(土)	第1回 まち歩き「わかばやしを歩く 桜通り編」開催
5/20(月)	第1回企画会議：第1回まち歩き振り返り、第2回の最終確認
6/8(土)	第2回 まち歩き「七郷堀と染職人」開催
6/25(火)	第2回企画会議：第2回まち歩き振り返り、第3回の内容検討
7/22(月)	第3回企画会議：第3回まち歩き日程調整・企画等
7/25(木)	第3回コース下見（事務局）
7/29(月)	第3回コース下見（学生スタッフ3名+事務局）
8/19(月)	第4回企画会議：第3回まち歩き内容検討
9/25(水)	第5回企画会議：第3回まち歩き内容検討
10/23(水)	第6回企画会議：第3回まち歩きコース下見・最終確認
11/2(土)	第3回 まち歩き「荒浜の展望～震災から13年～」開催
11/20(水)	第7回企画会議：第3回まち歩き振り返り、次年度の企画
12/18(水)	第8回企画会議：第1回まち歩き内容検討
2/17(月)	第9回企画会議：第1回まち歩き内容検討、第2回の企画
3/17(月)	第10回企画会議：第1回まち歩き最終確認、第2回の内容検討

8. 事業を行ってみたいの問題点・課題等

地縁や歴史をテーマにすることが多いため、参加者は高齢者が多い傾向である。事業のねらいとしては問題がないが、今年度新たに参画した学生スタッフからは、まち歩き以外の体験要素を取り入れたり、SNS を活用し周知・申込方法を工夫したりすると若者にも情報が届きやすく、参加年齢層の拡大につながるのではと提案があった。

区民スタッフも企画会議で積極的に意見を交わす方々が揃っており、定番のまち歩きの継続に問題はないが、新たな魅力の発掘には工夫が必要と感じている。

9. 今後の事業の目標・展開等

昨年度に今後の展開として示していた、新規メンバーの獲得や外部団体との連携については、新たに学生スタッフが参画し、その提案によりせんだい3.11メモリアル交流館や海浜エリアの防災集団移転跡地利用施設を巻き込んだ新たな企画を行うことができたため、学生を含むスタッフの公募を継続していきたい。

これまでと違った新鮮さの点では、4月の定番である花見を含むまち歩きにおいて、学生スタッフからの提案により、和菓子づくり体験を取り入れて開催する。